
コーヒーカップマジック

○

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コーヒーカップマジック

【Nコード】

N4514D

【作者名】

○

【あらすじ】

落ち着いた雰囲気のあるBARで、今日も渋い大人のスラップスティック。劇場「すぽと」のお題小説です。

薄暗く静かな店内。かすかにジャズの音が流れてくる。

店の奥では即身仏一步手前のマスターが静かにコップをタワシで磨いている。

カウンターには一人の女。ゆっくりとカクテルグラスを傾ける。

静かに流れていく時間。マスターが新たなコップを取り出して落として割った。

そこへ一人の男が歩きながら女の隣の席に近づいてくる。

「ここ、いいかな」

「……ええ」

男は女の言葉を聞くと、よどみのない動きで椅子に座った。

「マスター、コーヒーを」

男の言葉にマスターは、破片を組み上げてコップを復元する作業を中止し、コーヒーメーカーのスイッチを入れた。

コーヒーメーカーはガタガタと断末魔を思わせる振動を披露した後、黒いうん……黒絵の具のような粘性の高い物を吐き出していく。

男は隣の女の横顔を、穏やかな風を思わせる表情で眺めている。

「お嬢さん、お一人ですか？」

「ええ」

「憂いのある表情をしておいでだ。何か悩み事でも？」

「……別に」

男の前にマスターの手が細かく振動しながらコーヒーを置こうとする。

「ふっ、わたくし少々マジックの心得がありまして。あなたの心が少しでも晴れる事を願い、披露いたしましょう」

そう言つと男はいまだカウンターに到達せずにマスターの手の中にあるコーヒーを奪い取った。

「よくご覧下さい。このコーヒーカップが」

「それ湯飲みよ」

女の言葉に男は自らの手にある物をまじまじと眺めた。確かに湯飲みだった。

「はっはっは」

男は指で額をおさえると口を大きく開いて笑った。

「どうやら私の目はあなたのマジックにしてやられたらしい」

女は口の端に笑みを浮かべると、艶のある声を出した。

「マスター、お勘定」

その声を聞いたマスターは、ぎこちない動きでレジに向かい、人差し指で何かのボタンを押した。

レジはチーンという音を立てて引出しを放出。それをまともに鳩尾に喰らったマスターはそのまま棒のように後ろに倒れた。

やれやれという表情の男は湯飲みの中身を一口飲んで倒れた。

女はカウンターに小銭を置いて、一人店を後にするのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4514d/>

コーヒーカップマジック

2010年10月11日20時44分発行